２０２５年3月３１日

保護者　様

あおぞらキンダーガーデン

あおぞらでは、認定こども園の施行規則に基づき、2024 年度の自己評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

学校法人藤枝スズキ学園 幼保連携型認定こども園あおぞらキンダーガーデン ２０２４年度 自己評価書

あおぞらキンダーガーデンの教育目標及び本年度の重点目標

◎　教育目標…心身ともに健康な子

○　子ども像　＊自分を大切にし、仲間とともに成長する子ども
＊まわりのものに深い関心を寄せ、感動できる子ども
＊じょうぶな体をもつ子ども
＊自分の発見や考えを豊かに表現できる子ども

これらの子ども像を達成するために、本年度は昨年度に引き続き「幼児理解と育ちの記録・あそびの考察・環境」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

（1）　教育　　評価項目の及び取組状況（A＝よくできた　B＝ふつう　C＝できなかった）

評価項目	自己評価	取　組　状　況
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	自己学習力を上げ、日常の会議の中で実践を振り返りや論議・研修会参加の中で、子ども理解を深め、実践力が豊かになりました。
②乳幼児の発達を学んで幼児保育を充実する研究	A	日常の短い時間、総括、方針、法人全体学習会・保育問題研究会・和光鶴巻幼稚園公開保育研修・赤木和重（神戸大）の学習会・各種リモート研修などの場面で学びを深めてきました。その中で「今」を充実する「楽しかった」経験が、「自己肯定感の感性的土台を創る」事を改めて学び「あそび」保育に生かしていきたいと思っています。
③保育環境研究	A	学習・保育実践の中で「環境」の大切さを深め、室内外・園庭の環境整備を整えるなどし、環境充実を図ってきました。
④具体的な保育内容を考える	A	職員会議、総括、方針会議、給食会議、園内学習会の学びは、保育の多様な視点、保育内容のあり方を深めることができました。
⑤教育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを教育課程に照らし合わせ、見直しを行い、日常保育と教育課程のつながりを学びました。
⑥保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	連絡帳（わが子の様子）そしてクラス・園だより（わが子や仲間の姿、保育の中で何を今大事にしているのか？等を掲載し、日常の子育ての手掛かりになるヒントになる様）発行しました。又、懇談会・個別面談を実施してきました。そして送迎時や行事・保護者会活動など直接的に関わる時間を大事にしてきました。その他、ホームページ・掲示板は随時更新しました。

（2）　運営

評価項目	自己評価	取　組　状　況
①教職員体制の改善、向上	A	・正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習・運営をすすめています。 ・特定非営利活動法人なのはなとの教職員研修・交流を行いました。 ・平島幼稚園と、園児、教職員の交流を行い、実践・研修を実施しました。 ・特定非営利活動法人なのはなとの交流を行いました。

②保育環境の改善、向上	A	保育実践実現のための室内外、設備の補充や安全点検を進めてきました。園庭や室内の環境づくりを随時整えてきました。
③運営全体について	A	２０２４年１１月２９日に実施した静岡市の監査において、特に改善事項はありませんでした。

（3）　本年度の重点目標の総合的な評価結果　（A＝よくできた　B＝ふつう　C＝できなかった）

A	幼児理解には「理論的と実践的」理解があり、各種研究会と日常の記録、実践の融合が必要です。 今年もあおぞらキンダーガーデンで見せる子どもたちの様々な姿をどう理解するのか？の視点で沢山の論議が行われました。その結果、教師の自己学習力・子ども理解が深まり実践が豊かに行われました。そして、忙しい中でも園内外の研究活動に参加し「理論と実践」の結びつきを深め「子どもの最善の利益」を求める保育の充実が図られたと考えています。

（4）　今後取り組むべき課題

幼児期は、環境による保育と言われるように、豊かな保育を創り出すには、環境づくりが常に求められています。今後とも園外での環境を充実するとともに園内の環境づくりを充実していきたいと考えています。

「2024 年度　あおぞらキンダーガーデンに関するアンケート」の報告

実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

（配布枚数 67 枚　回収枚数 52 枚　回収率 77.6%）

	はい	いいえ	どちらでもない
ア　お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	５１人（98.1%）	０人	１人（1.9%）
イ　お子さんが「成長したなあ」と感じることがありますか	５０人（96.2%）	０人	２人（3.8%）
ウ　お子さんは基本的な生活習慣が身に付いたと思いますか	５１人（96.2%）	０人	２人（3.8%）
エ　保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	４６人（88.5%）	１人（1.9%）	５人（9.6%）
オ　連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	４８人（92.3%）	１人（1.9%）	３人（5.8%）

３　今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況を深くつかみ、課題を見つけ、遊びの充実を深め、楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	現在の子どもの「ありのまま」の姿に共感し、子どもを真ん中に、家庭保育と集団保育の違いを大事にして『子どもの最善の利益』を求めて、子育てのパートナーになる様、保育を進めていく

４　その他

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、親も子育てを通して親になる喜びを感じることが難しい時代となっています。 １９９０年代、保育の仕事が「サービス」と言われ、教育より親のニーズにこたえる事を求められるようになりました。そのことで家庭教育と集団保育の中で育つ力が、違っていることを理解することが難しくなっています。そしてもう一つ、保幼小連携の強化が進み小学校で困らないようにすることが園や家庭に求められる流れが強くなっています。 園では、「子どもの最善の利益」を中心に父母理解を深め、より専門的な保育の知識や方法を深め実践を進めていくことが大切と考え、来年度も、あおぞらの歴史の中で大切にしてきた実践の中核を確認し「実践を科学する」視点で理論と実践を深め、保育の質を高めていきます。